

居場所に関する資料

内山絵美子（小田原短期大学）

居場所の定義

- 「児童生徒が安心できる、自己存在感や充実感を感じられる場所」
(文部省1992)
- 「自己が大事にされている、認められている等の存在感が実感でき、かつ精神的な充実感の得られる」 (文部科学省2003)
- 「居場所」は他者から認められたり、他者から自由になって自分を取り戻したりして得られるような「自分を確認できる場所」 (中島・山中ら2013)
- 「まちの居場所」は「明確な目的や機能を持つ場所というより、まことにさりげなく存在する場所であり、様々な人がさまざまな理由で集っている場所」「生活に必需というものではなく、その場所を生活の中心に据えるようなものでもない」「誰でも気軽に立ち寄ることができ、思い思いに過ごすことができるような運営や空間設定がされている場」 (日本建築学会2010,pp.174-175)

居場所の両義性（柳下・高橋2019などから筆者が整理）

- ・開かれている ↔ 閉じられている
- ・社会的 ↔ 個人的
- ・つながり ↔ 一人でいられる
- ・いつもどおり ↔ いつもと異なる（サードプレイス）
- ・誰にでも ↔ 課題有・要支援
- ・予防 ↔ 治療・支援・援助

居場所の類型（中島・山中ら2013）

居場所は物理面・心理面両方を含む概念であるため、物理面を示す「空間の支配度」と心理面を示す「他者との関わり」の2軸で構成する分析軸を設定（p.116）

※1 空間の支配度…おそらく物理的支配なので利用する広さや時間ということ

※2 その他の軸【自由度】 目的意識の高低、空間管理の強度が考えられる

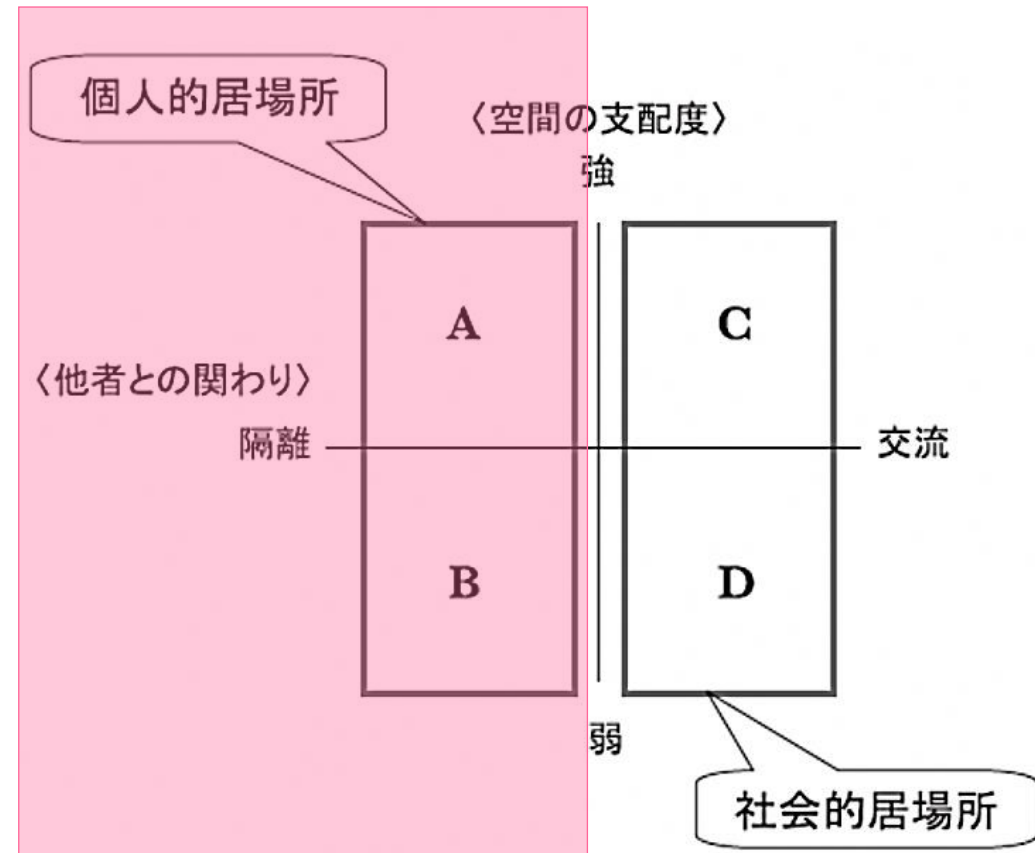
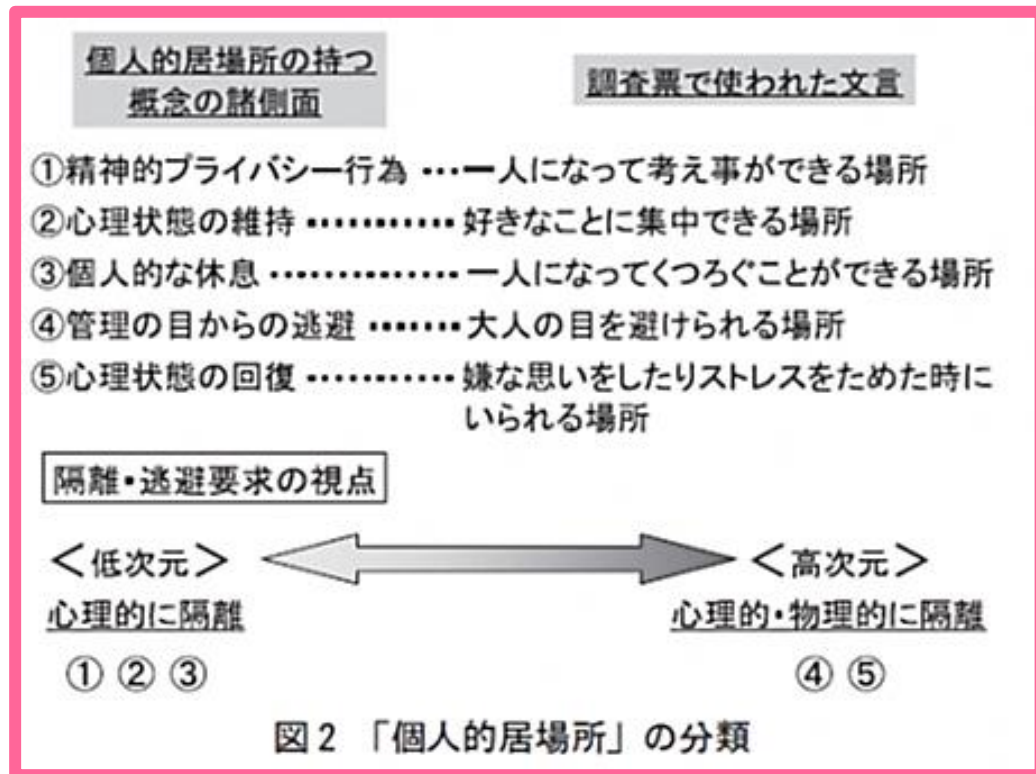


図1 「居場所」の構造図

居場所の類型（中島・山中ら2013）

居場所は物理面・心理面両方を含む概念であるため、物理面を示す「空間の支配度」と心理面を示す「他者との関わり」の2軸で構成する分析軸を設定（p.116）

※1 空間の支配度…おそらく物理的支配なので利用する広さや時間ということ

※2 その他の軸【自由度】目的意識の高低、空間管理の強度が考えられる

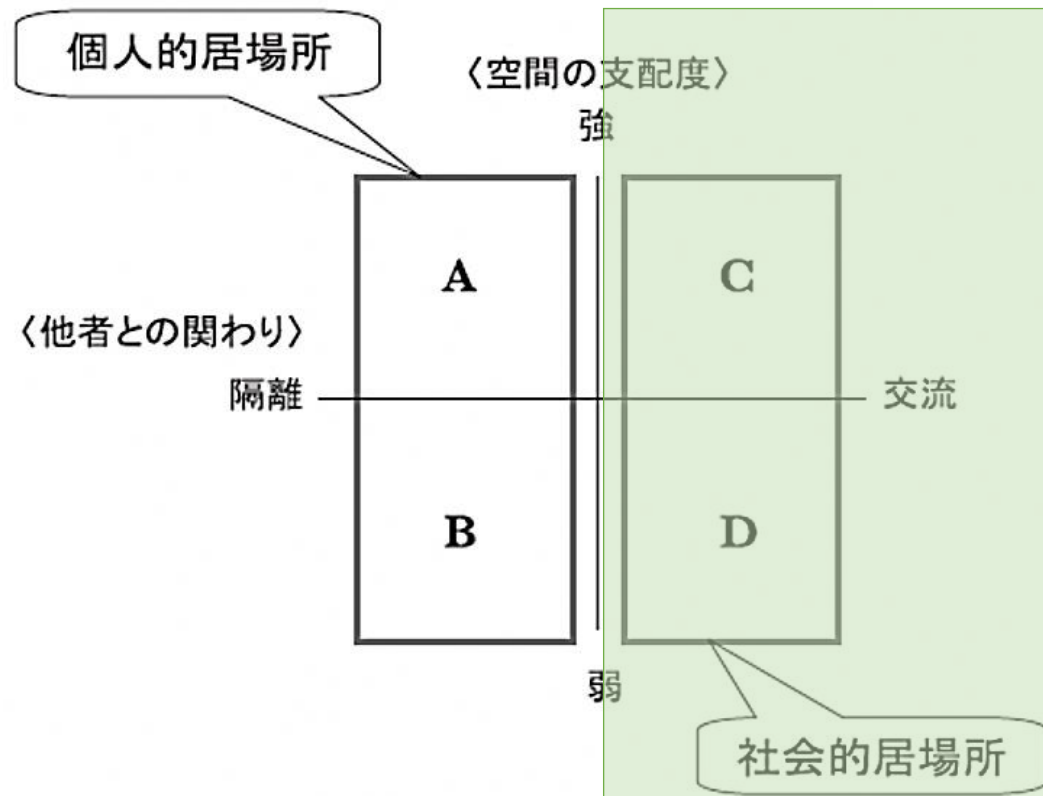
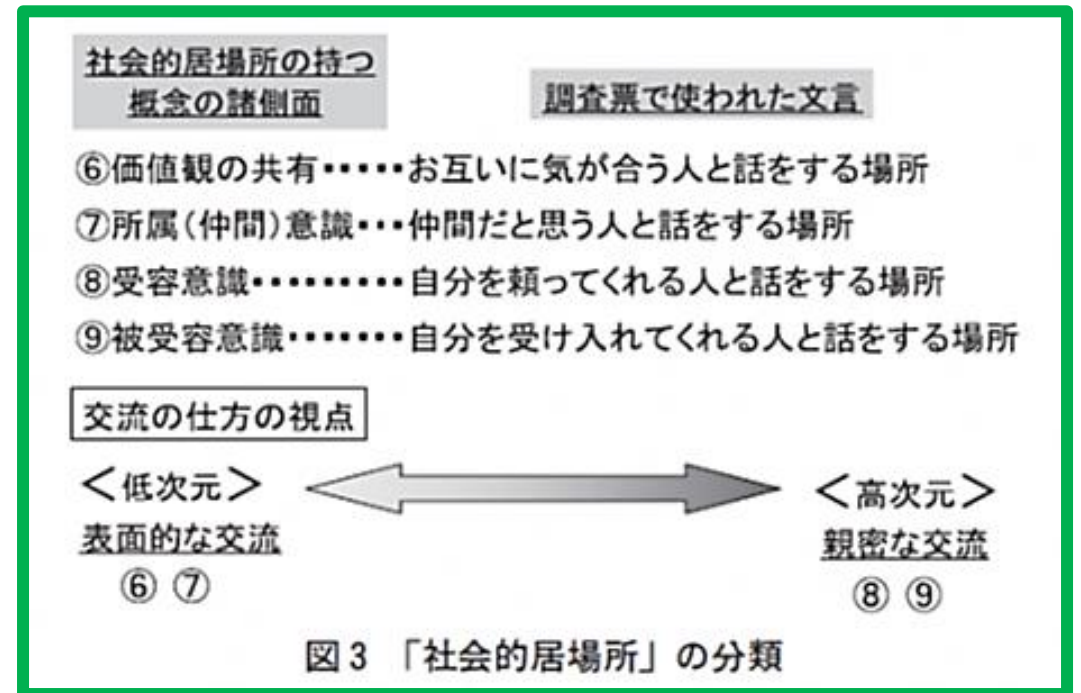


図1 「居場所」の構造図

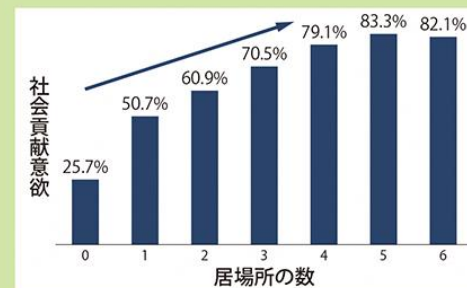
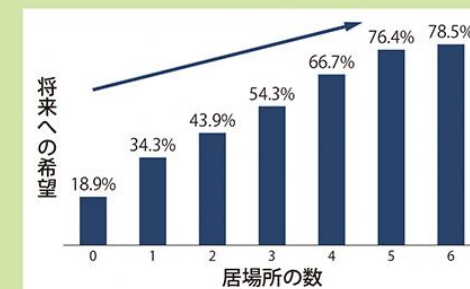
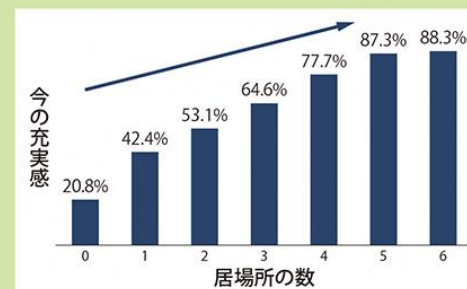
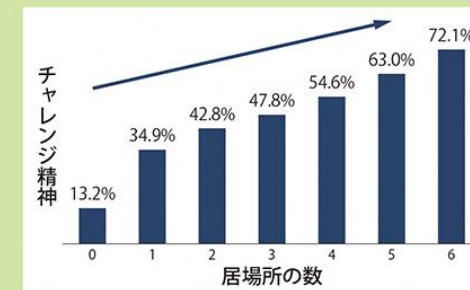
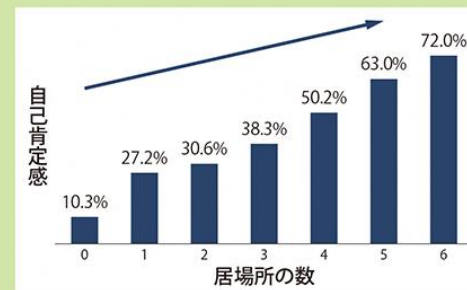


子供・若者と居場所

内閣府「令和3年版 子供・若者白書」(2021年)

…居場所の数が多いほど、自己認識が前向きである

https://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/r03honpen/board_01.html



※19年度のデータ



居場所（自室、家庭、学校、地域、職場、インターネット空間）の多さと自己認識の前向きさは、概ね相関。

こどもの居場所

- 先行研究におけるこどもの居場所に関する視点・理念、求められる要素（こども家庭庁 こどもの居場所づくりに関する検討委員会 第1回 資料2 令和4年8月8日より）赤字筆者

- ① こどもが安心して**休息**できること、安らげること
- ② こどもがありのままの自分でいられること、**受容**されること
- ③ こどもが自分の気持ちや意見を**表現**できること
- ④ こどもが**自己肯定感**を抱けること
- ⑤ こどもが他者から存在や能力を認められること、**自己有用感**を抱けること
- ⑥ こどもが自分の存在を認識できる、**生きているという感覚**を抱けること
- ⑦ 人と人との**関係性**が開かれていくこと
- ⑧ 自分さがしの**学び**が生まれること
- ⑨ いつでもある、戻れる場所であること（年齢により途切れることがない）
- ⑩ こどもが**主体**であること
- ⑪ いつでも**自由**に1人で行けること
- ⑫ 過ごし方を**選べる**こと

居場所とセキュリティ・ゾーン

ー「学校を開き・守る」 (横山2022より筆者作成)

一次SZ

開放／
招き入れ

地域の居場所ゾーン

学校外からの視認性の良さ
まちかど広場
作品展示
賑わい

二次SZ

限定開放（セキュリティチェック）／
計画的な利用

交流・協働ゾーン

多目的な利用スペース
図書室
スポーツ施設
ホール
居場所カフェ

三次SZ

内部者のみ

児童生徒・教職員の居場所
ゾーン

普通教室、ロッカー、職員
室、事務室
保健室、カウンセリング・
ルーム、リソース・ルーム
など

先行研究のインプリケーション

- 児童生徒にとっての居場所
 - …多様な児童を想定する必要→複数の性質の居場所が必要
 - …要支援↔すべての児童生徒
 - …休息、逃避、学び、つながり、自由、安心、肯定、
 - …児童生徒たち自身が必要と思う空間（意見聴取重要）
- 教職員にとっての居場所
 - …休息、隔離、自由、集中
- 地域、保護者にとっての居場所
 - …集い、学び、貢献、活力、学校や子どもが見える

参考文献

- 中島喜代子、中山章子、松崎明日香、井上真理子（2013）「中高生の居場所形成のための公共施設利用に関する研究」『三重大学教育学部研究紀要』第64巻社会科学、pp.115-124
- 日本建築学会編（2010）『まちの居場所—まちの居場所をみつける/つくる』東洋書店
- 文部科学省不登校問題に関する調査研究協力者会議（2003）『今後の不登校への対応の在り方について（報告）』
- 文部省学校不適応対策調査研究協力者会議（1992）『登校拒否（不登校）問題について - 児童生徒の「心の居場所」づくりをめざして-（報告）』
- 柳下換, 高橋寛人編著（2019）『居場所づくりにいま必要なこと：子ども・若者の生きづらさに寄りそう』明石書店
- 横山俊祐（2022）「教育の変革を支える学校施設の計画・しつらえ（特集：公共性と協働性を支える学習／教室空間）」『日本教育政策学会年報』第29号、pp.10-24